

2. 重点プロジェクトの推進

序章で述べたように、4つの重点プロジェクトを掲げ、里山再生を図り、「いのち彩る里 飯南町」の実現に力を入れていきます。

具体的には、地域資源の活用と保全による産業の活性化を支える「**産業振興**＜里山産業創造プロジェクト＞」、飯南町ファンの拡大と定住促進を進める「**交流・定住**＜都市農村交流・定住プロジェクト＞」、飯南町での、安心した暮らしの実現を図る「**保健・医療・福祉**＜生活支援プロジェクト＞」、地域コミュニティの充実によるまちづくりを推進する「**人材・組織**＜地域力向上プロジェクト＞」、を進めます。

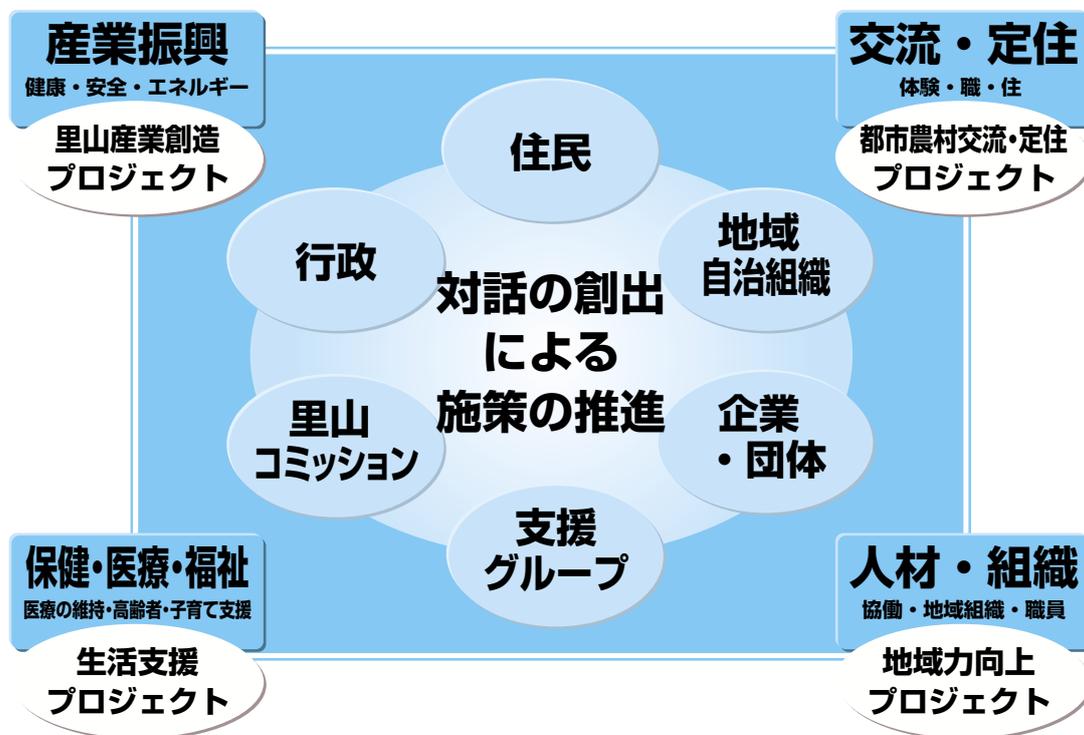
◆ **里山産業創造プロジェクト** ～地域資源の活用と保全による産業の活性化～

◆ **都市農村交流・定住プロジェクト** ～飯南町ファンの拡大と定住促進～

◆ **生活支援プロジェクト** ～飯南町での、安心した暮らしの実現～

◆ **地域力向上プロジェクト** ～地域コミュニティの充実によるまちづくりの推進～

里山再生 = 『生命地域』の創出



重点① 里山産業創造プロジェクト

豊富な里山の資源を活かし、安全で付加価値の高い、飯南ブランドを形成するなど、「里山産業」の創出による産業の活性化を図ります。

【これまでの取り組み】

(1) 有機農業の推進

町の基幹産業としての農業の復活のため、有機農業を推進し、農産物の高付加価値化に取り組みました。

(2) 健康食品の研究開発と産業化

里山で育った安全で安心な農産物などを活かして、健康をテーマとした商品開発に取り組みました。

(3) 里山資源の有効活用

森林セラピー*など、里山資源を産業化し、都市住民との交流による資源活用を促進してきました。

【今後の取り組み】

(1) 有機農業の推進

今後も、減農薬・無農薬栽培や、有機栽培など、消費者ニーズに応えられる、安全で、美味しい農作物の生産に力を入れます。

(2) 飯南ブランドとしての産業化

飯南町といえどという、ブランドの創出など、里山で育った安全で安心な農産物の6次産業化を図ります。

研究機関との連携を図りながら民間活力を導入し、新たな商品の開発を進め地場産業化に取り組みます。

また、ブランドイメージのPRや、「さとやまにあ商店」などインターネットを活用した販売、個別契約による販売など、販路拡大に力を入れます。

(3) 里山資源の有効活用

セラピー事業については、メディアの活用や、医学的根拠に基づく複合的な健康・美容、癒し効果をPRしていきます。

森林資源など、地域資源を活かしたエネルギー利用が行えるよう、特別区域に申請し、法的優遇措置を受けての新産業創出を図ります。

里山資源を活かした地場産業の活性化に向けて、研究機関との連携を図りながら民間活力を導入し、新たな商品開発等を進めます。

重点② 都市農村交流・定住プロジェクト

人口減少社会を迎え、若者の流出に歯止めをかける取り組みとあわせて、体験や就農研修などの交流滞在から定住へと進む仕組みづくりを行い、団塊世代や農村志向の若者の定住を図ります。

【これまでの取り組み】

(1) 自然体験・体験学習ができる空間づくり

クラインガルテン*などの既存施設での生活体験をはじめ、森林セラピー*事業を展開しました。

(2) 里山に滞在する仕組みづくり

農家民宿制度の創設、農業体験修学旅行の誘致には至りませんでした。が、お試し暮らしなど、数日間の滞在中で田舎暮らしを実感できる仕組みづくりを構築し、その受入体制づくりを進めました。

(3) 情報発信と推進母体となる組織づくり

地域を支える中間支援組織*(マネジメント組織)として「里山コミッション*」を立ち上げました。

セラピー事業や観光の情報発信、特産品販売などの取り組みについて、一定の成果を挙げています。

(4) 住宅の確保

ホームページでの空き家情報の提供や斡旋、空き家を活用したお試し暮らし向け住宅の整備などを行いました。

(5) 働き場の確保

地元企業との連携、里山産業による新たな雇用機会の創出などに取り組みました。

【今後の取り組み】

(1) 自然体験・体験学習ができる空間づくり

今後も、森林セラピー*などを中心とした自然体験・学習機会の充実化を図ります。

また、地域資源を活用した新たな体験メニューの創出を図ります。

(2) 里山に滞在する仕組みづくり

お試し暮らし、農家民泊などにあわせて、県民の森をリニューアルした「ふるさとの森*」を核とした滞在機能を強化していきます。

(3) 里山コミッションの組織体制の強化

今後は、生活支援プロジェクトなど、住民生活を支える事業の窓口として、組織体制の強化を図ります。

(4) 住宅の確保

住宅マスタープラン*に基づき、町営住宅など公的住宅を整備するとともに、空き家情報の提供・斡旋を推進し、空き家の改修支援についても検討していきます。

(5) 働き場の確保

地場産業との連携、6次産業*の創出、起業支援など、地域における産業の活性化と雇用の創出に力を入れます。

また、役場業務のうちアウトソーシング*できる仕事は、積極的に民間へ委託します。企業誘致の積極的な取り組みを行います。

重点③ 生活支援プロジェクト

過疎化、少子高齢化が進む中で、特に、一人暮らしの高齢者世帯や高齢者夫婦世帯の日常生活介助や生活支援などサポートを必要とする世帯が増加しています。

また、子どもの一時的預かり、買い物等の生活支援、高齢者介助など、地域の方々やサークルの登録など、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みを構築します。

【これまでの取り組み】

(1) 保健・医療・福祉情報の一元化

行政と社会福祉協議会による「災害時援護者台帳」作成など高齢者等の情報共有を行いました。保健・医療を含めた一元化には至っていません。

(2) 保健・医療・福祉サービスの充実

「生きがい村推進センター*」を立ち上げ、地域包括ケアシステムの確立に向けて基盤づくりを行いました。

(3) 地域における生活支援体制づくり

住民の登録による地域住民の生活支援や子育て支援、高齢者の介護支援などを行う生活支援登録制度の構築を目指しましたが、実現には至っていません。

(4) 生活支援産業の育成

「里山コミッション*」を設置し、中間支援組織として、生活支援産業の育成やサービスの提供を目指しましたが、現時点では体制が整っていません。

【今後の取り組み】

(1) 保健・医療・福祉情報の一元化

電子カルテの整備や、CATV やインターネットを活用した情報提供など、保健・医療・福祉情報の一元化に努めます。

(2) 保健・医療・福祉サービスの充実

「生きがい村構想」を掲げ、保健、医療、福祉・介護のさらなる連携・統合により、総合的推進システムの確立を目指します。

(3) 地域における生活支援体制づくり

地域各地で活躍する支援団体や民間事業者との連携を密に、支援が欲しい住民へ支援を提供するため、事業者・団体とをつなぐ「里山コミッション*」を総合窓口として、体制の強化を図ります。

(4) 生活支援システムの構築

ふるさと納税などを活用した起業支援や、「里山コミッション*」との連携により、生活支援情報の提供を行うことで、生活支援団体と住民とをつなぐことができる、生活支援システムを構築します。

重点④ 地域力向上プロジェクト

集落の維持、地域の活力の向上に向け、地区における取り組みの強化や住民参画機会の創出、地域活動の活性化により、住民と行政が協働によるまちづくりを推進します。

また、地域における人材の発掘・育成や、公民館・自治振興組織を核とした対話の場づくりに取り組み、住民と行政が協働した新たな仕組みづくりを行います。

【これまでの取り組み】

(1) 地域における人材発掘・活用

「里山コミッション*」によるまちづくり人材バンク制度の構築には至っていません。

(2) 自治振興と活動の活性化

自治振興を促進するため、住民の手による行動計画の策定を支援するとともに、住民の積極的な活動や交流機会の創出に対して活動を支援しました。

(3) 協働によるまちづくりに向けた取り組み

自治区や住民団体などが活動の企画・提案を行い、町が活動に対する助成を行う提案型事業を実施しました。

(4) 住民・行政の協働への仕組みづくり

職員地区担当制の充実・強化や公民館や自治振興組織を核とした対話の場創出に努めてきました。

今後も、より一層の協働の仕組みづくりが必要です。

【今後の取り組み】

(1) 地域における人材発掘・活用

「里山コミッション*」の組織を強化し、「飯南の達人」としての人材バンク登録者を増やすとともに、生活支援団体についても、登録制度を設け、登録・紹介を行っていきます。

(2) 自治振興組織の育成と活動の活性化

今後も、自治振興組織の育成・強化を進めるとともに、自治振興組織同士の連携強化など、協働のまちづくりの推進のために、自治振興活動の活性化を図ります。

(3) 協働のまちづくりに向けた対話の場づくり

これまで同様、住民の活動に対する提案型事業への助成を行います。

また、協働のまちづくりの推進において、重点的な取り組みに示している「対話の創出」を推進し、住民と行政が密に対話できる場を創出します。